

令和 7 年度
鳥取県若年未婚者の出会い・結婚に関する
意識調査 報告書

令和7年 10 月
鳥取県

目次

【調査概要】	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	2
2. 1. 調査対象	2
2. 2. 調査時期	2
2. 3. 調査方法	2
2. 4. 有効回答数	2
2. 5. 回答方の属性	2
3. 資料の見方	2
4. 回収状況と信頼区間	3
4. 1. 必要標本数について	3
4. 2. 標本誤差について	3
5. 調査の内容	4
【調査分析】	5
1. 結婚に関する意識について	5
1. 1. セグメント比較結果	5
1. 2. セグメント比較から考えられる考察	13
2. 出会いに関する意識について	14
2. 1. セグメント比較結果	14
2. 2. セグメント比較から考えられる考察	25
【今後の展望】	26
1. 考えられる施策について	26
1. 1. 結婚の障壁を解消する施策について	26
1. 2. 結婚への意向の低下を解消する施策について	26
1. 3. 出会いの場への参加の障壁を解消する施策について	26
1. 4. 出会いの場への参加意向の低下を解消する施策について	27
【参考資料】	28
1. セグメント別集計結果	28
2. 設問内容一覧	55

【調査概要】

1. 調査の目的

本県の出生数は、昭和30年の11,901人以降、減少傾向にある。昭和35年には1万人を下回り9,000人台となり、令和2年からは3,000人台で推移している。令和6年は3,108人で、前年より208人減少し、過去最少を更新した。

本県の合計特殊出生率は平成17年が1.47であるのに対し、令和5年は1.44と2.0%減少している。全国の合計特殊出生率は平成17年が1.26であるのに対し、令和5年は1.20と4.8%減少しており、本県の合計特殊出生率の減少幅は全国平均と比べても近い水準にとどまっている。一方、本県の婚姻件数は平成17年が3,008件であるのに対し、令和5年は1,810件と39.8%減少しており、減少幅は全国より高い。本県における少子化の一因として、婚姻件数の減少が考えられる。

令和7年度鳥取県における少子化対策等に関するアンケート調査では、結婚に対する考え方として、「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」が37.6%で最も多く、次いで「1年以内に結婚したい」が22.2%、「ある程度の年齢までに結婚したい」が16.2%と、76.0%が結婚への意向を示す一方、実際の結婚年齢に対する意識については、「結婚できそうにない」が40.3%で最も多く、次いで「考えている（予定）よりも遅くなりそう」が31.9%と、結婚への意向があるにも関わらず、思うように結婚に至っていない状況が伺える。また、結婚が予定より遅れそう・できそうにない・するつもりはないと考える理由としては、「適当な相手に出会わない（出会わなかった）ため」が64.8%で最も多く、次いで「異性と上手くつきあえない（つきあえなかった）ため」が44.8%、「結婚資金に不安があるため」が18.1%、「仕事優先のため」が16.2%であった。異性との出会いについては、見合い、民間の結婚支援、公的な結婚支援の利用について「利用したい」が最も多かったが、本県の公式結婚支援アプリ「とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）」の入会者数は、未婚の回答者のうち約半数に留まっている。

以上の調査結果より、本県では結婚への意向のある方が結婚に至っていない状況があり、その原因として、出会いの場活用への意向はあるものの活用できない・活用したくない何らかの要因があることや、結婚資金に関する不安や仕事と家庭の両立に関する問題が結婚の障壁となっていることが考えられる。

本調査では、本県の若年層の未婚の方の出会いや結婚に関する意識を調査し、上記の出会い・結婚に関する問題の要因を明らかにし、婚姻件数増加に向けた施策の検討につなげることを目的として実施した。

2. 調査の概要

2. 1. 調査対象

米子市、境港市、南部町、日野町に居住する20歳～34歳の方

2. 2. 調査時期

令和7年9月1日から9月17日まで

2. 3. 調査方法

米子市2,362人、境港市490人、南部町124人、日野町24人を各自治体で無作為抽出し、対象方に対し、アンケート回答ページのQRコードを添付した案内文を郵送し、協力を依頼した。

2. 4. 有効回答数

配布数3,000件、回答数451件、有効回答数408件

本調査では、本県の若年層の未婚の方の出会いや結婚に関する意識を調査するため、Q3「あなたのご結婚されていますか？」に「結婚していない」と回答したものを有効回答とした。

2. 5. 回答方の属性

<性別>

男性181件(44.36%)、女性222件(54.41%)、答えたくない5件(1.23%)

<年齢>

20～24歳166件(40.69%)、25～29歳139件(34.07%)、30～34歳103件(25.25%)

3. 資料の見方

各設問の集計対象総数に対する百分率(%)を表している。複数回答を求める設問では、百分率の合計は100%を超える。また、百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。このため、百分率の合計が100%とならず、端数が生じたものがある。また、以下の回答を対象外とした。

- Q10「特にない」と他の選択肢を選択した回答。
- Q23「どの条件でも利用しやすくなるとは思わない」と他の選択肢を選択した回答。
- Q24、25「行政が取り組むべき支援はない」と他の選択肢を選択した回答。

4. 回収状況と信頼区間

4. 1. 必要標本数について

今回の調査においては、米子市、境港市、南部町、日野町に住む20歳以上35歳未満の推計人口23,960人（令和7年8月1日時点）から無作為に3,000人を抽出し、調査の依頼を行った。そのうち有効回答数は408人であり、有効回答回収率は13.6%であった。

まず、標本数の設定については、次の式によって与えられる。

$$A = \frac{N}{\left(\frac{\epsilon}{Z}\right)^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

本調査では、信頼度を95%として計算を行った。この場合、Zは、1.96であり、母集団の大きさ(N)は23,960人である。許容誤差(ϵ)を5%、母分散(σ)を0.25とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$A = \frac{23960}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \cdot \frac{23959}{0.25} + 1} \approx 378.11$$

よって、今回の調査において必要な最小標本数は379人であり、有効回答408人はこの条件を満たしているといえる。

4. 2. 標本誤差について

有効回答票の標本誤差を次の式によって計算した。

$$B = \pm Z \cdot \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{Q(1-Q)}{n}}$$

母集団の大きさ(N)は23,960人、回答者総数(n)は408人である。回答比率(Q)を0.5とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\frac{23960-408}{23960-1} \cdot \frac{0.5(1-0.5)}{408}} \approx \pm 4.84\%$$

よって、標本誤差は±4.9%である。

5. 調査の内容

- 本調査は、20～34歳の未婚の方を対象とするため、Q3「あなたのご結婚されていますか？」に「結婚している」と回答した方を集計対象外とし、対象方を以下の通り分類し、それぞれの出会いや結婚に関する意識を明らかにした。

- A. 結婚意向あり・交際あり：結婚への意向があり交際相手がいる方
- B. 結婚意向あり・交際なし：結婚への意向があり交際相手がない方
- C. 結婚意向なし・交際あり：結婚への意向がなく交際相手がいる方
- D. 結婚意向なし・交際なし：結婚への意向がなく交際相手がない方

- なお、各セグメントのサンプル数は以下のとおりである。
A. 115件、B. 190件、C. 12件、D. 91件
- 全てのセグメントに対する結婚についての意識に関する設問として、「結婚に対して期待を感じる点」、「結婚に対して不安を感じる点」、「結婚に必要な資金」、「仕事と結婚後の家庭を両立するうえで負担を感じる点」を設定した。
- B、Dに対する出会いの場の活用状況に関する設問として、「婚活イベントの参加状況」、「婚活アプリ・サイトの利用状況」を設定した。また、出会いの場活用についての意識に関する設問として、「婚活イベントへの印象」、「婚活アプリ・サイトへの印象」を設定した。

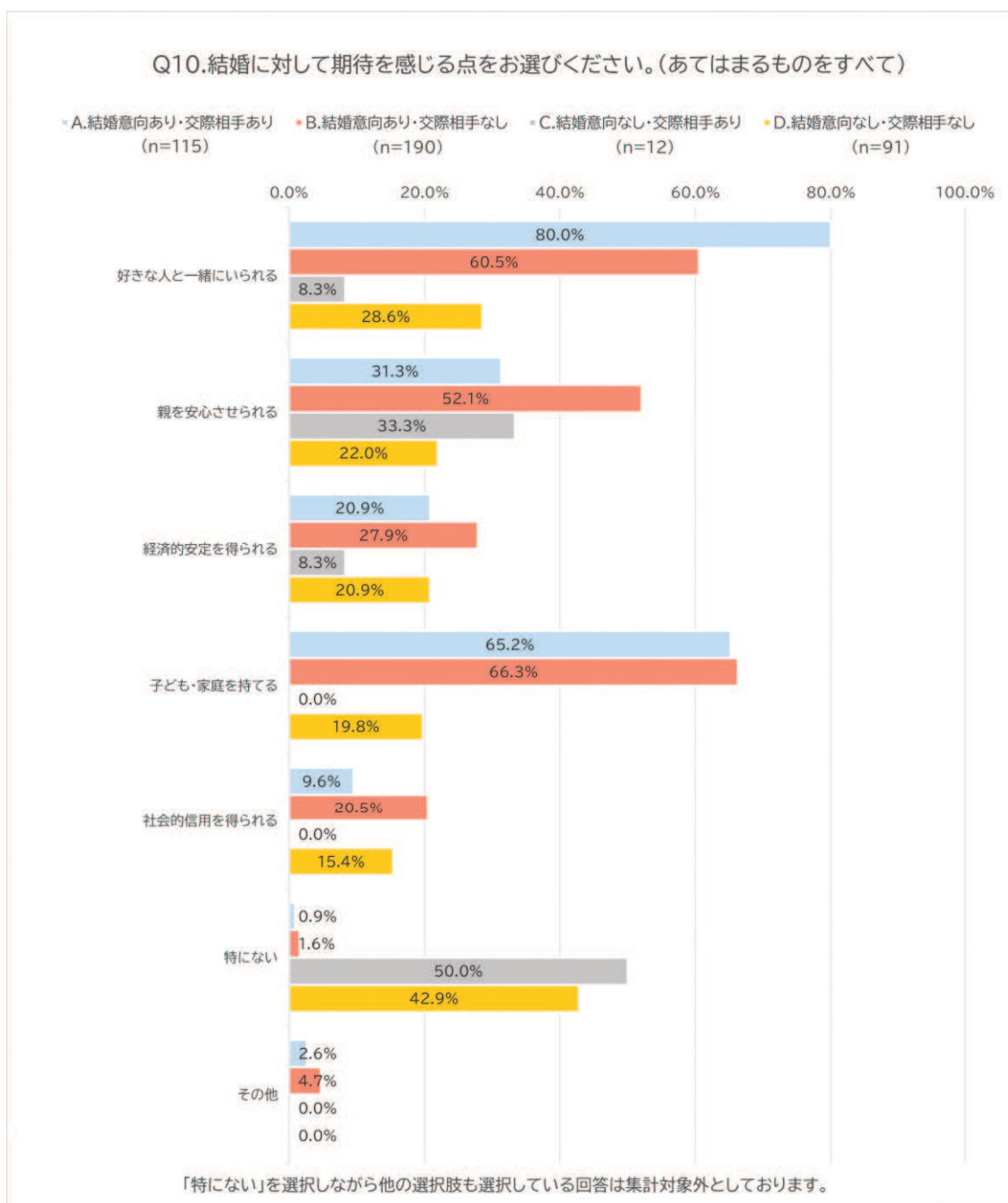
【調査分析】

1. 結婚に関する意識について

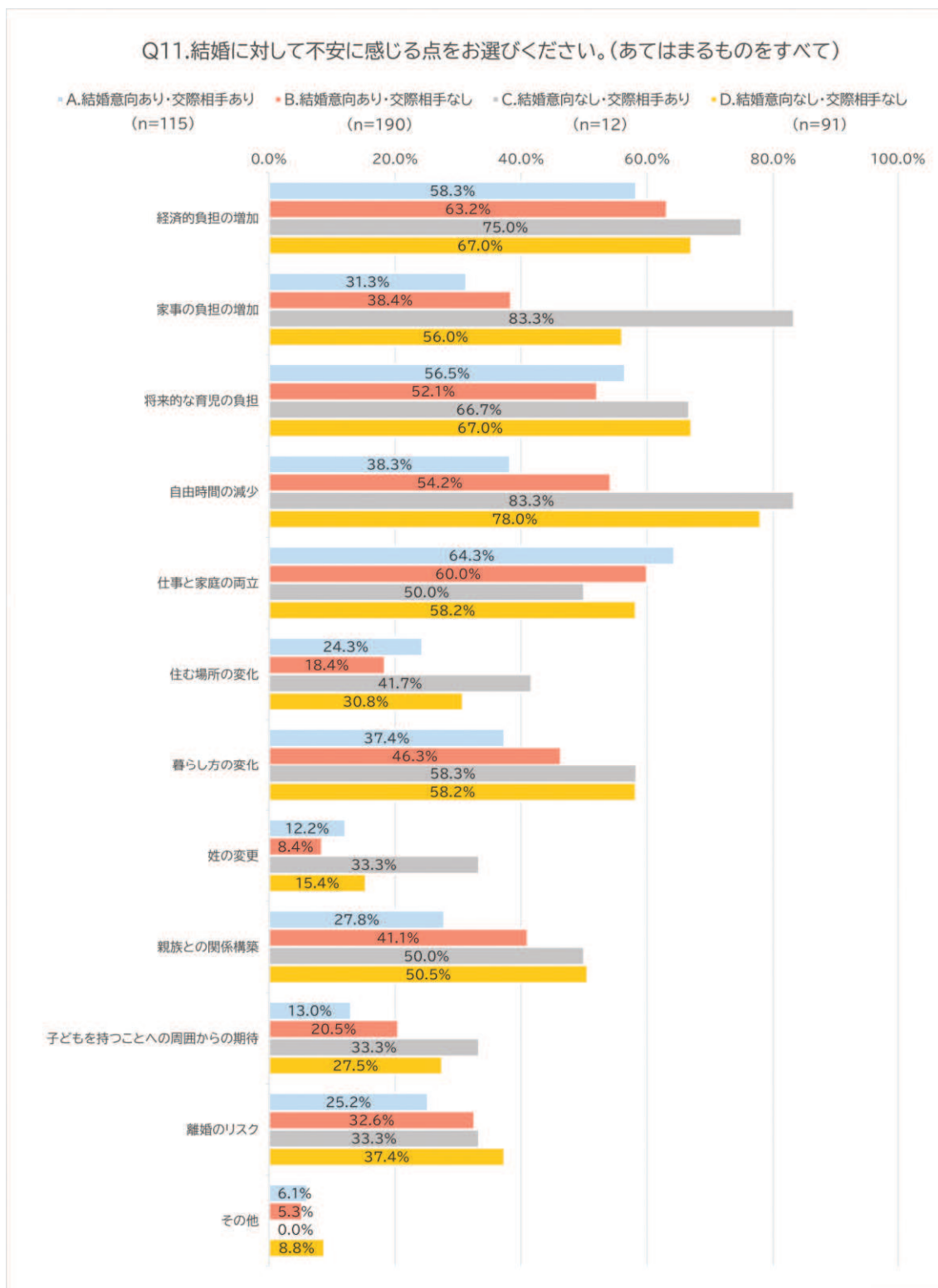
1. 1. セグメント比較結果

- 全てのセグメントの結婚に関する意識についての回答結果は図表1から図表5のとおりである。

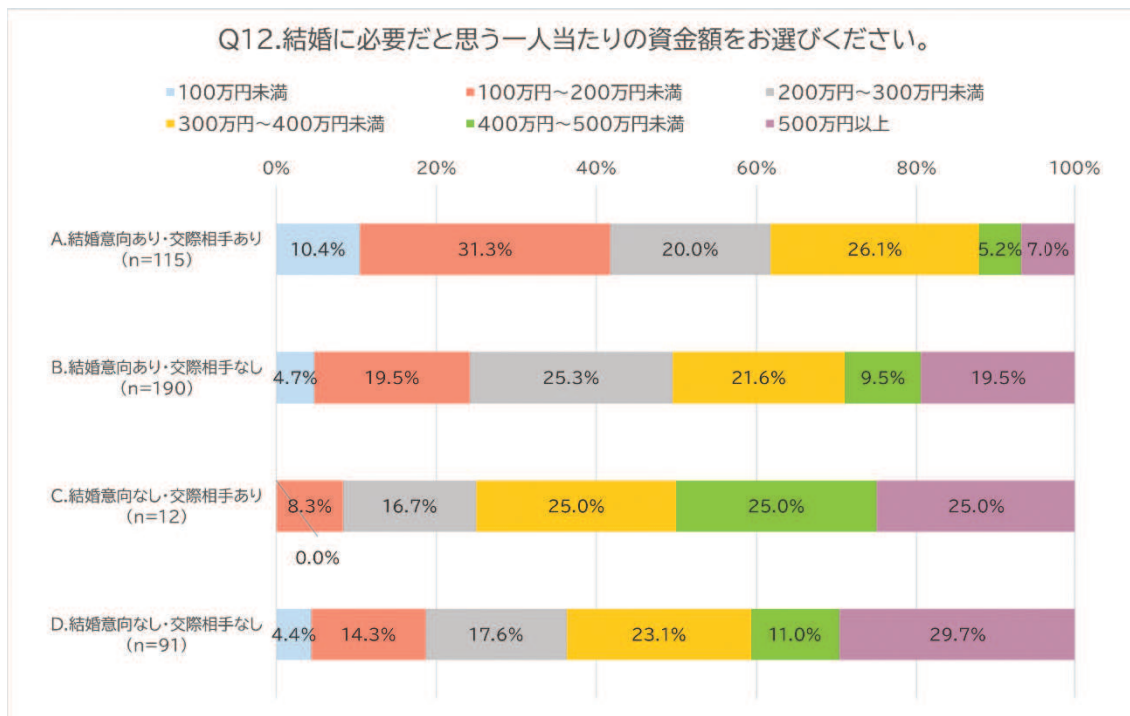
図表 1 結婚に対して期待を感じる点に関するセグメント別回答結果



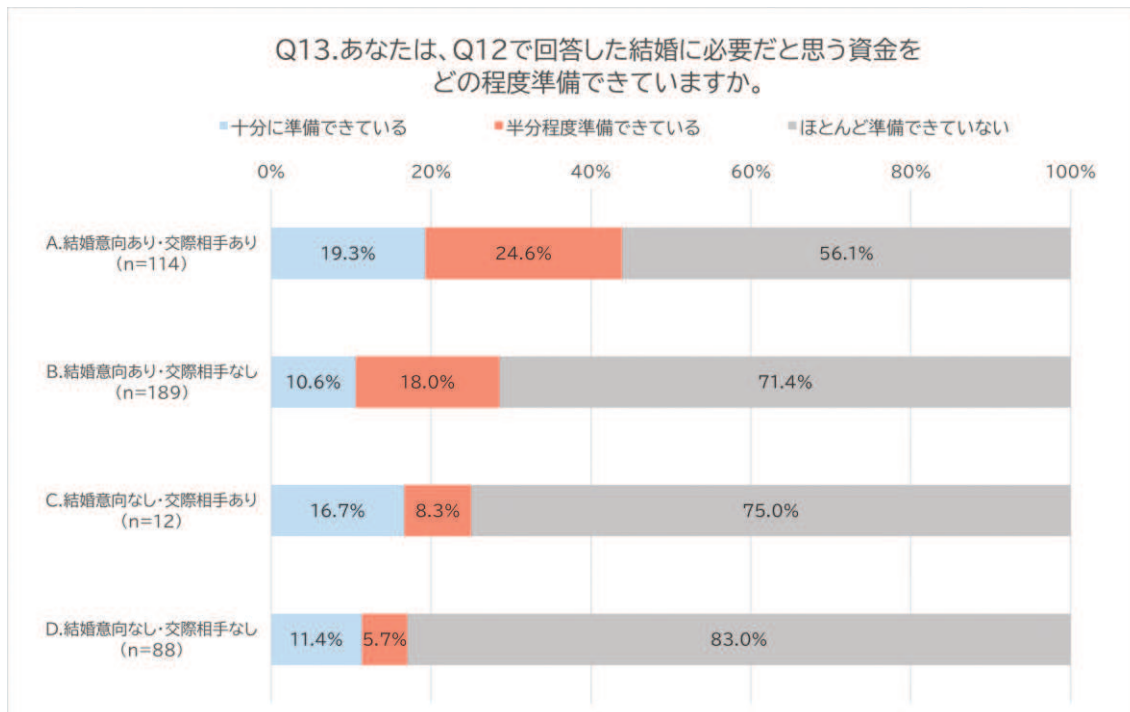
図表2 結婚に対して不安を感じる点に関するセグメント別回答結果



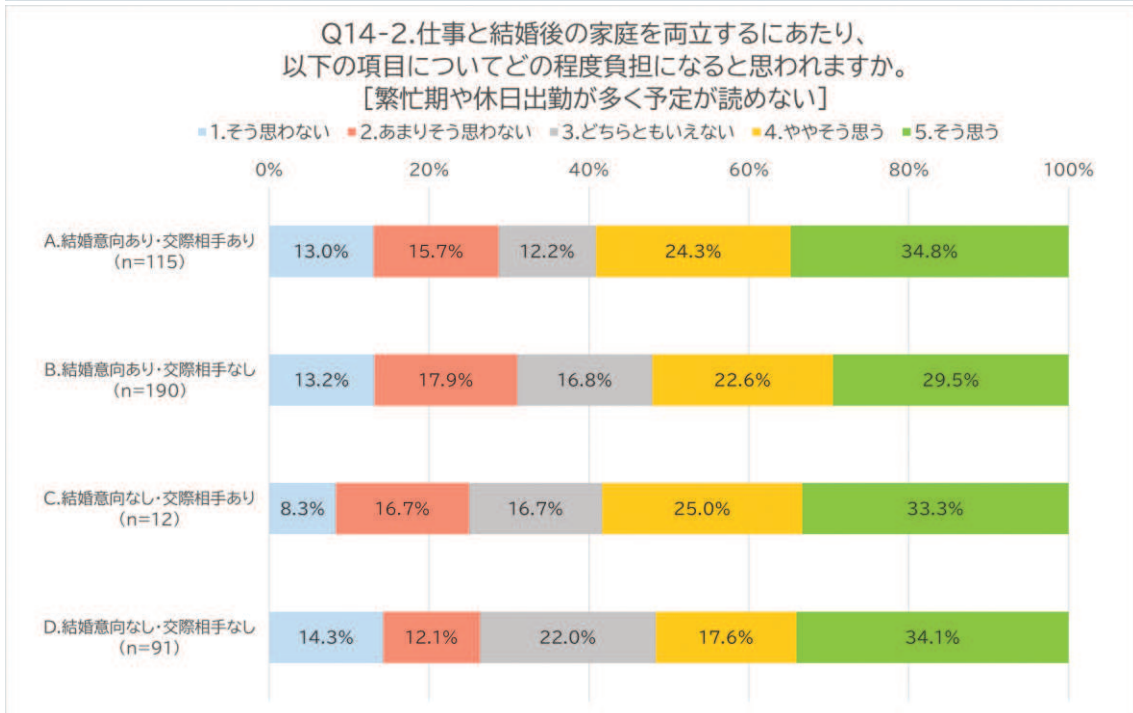
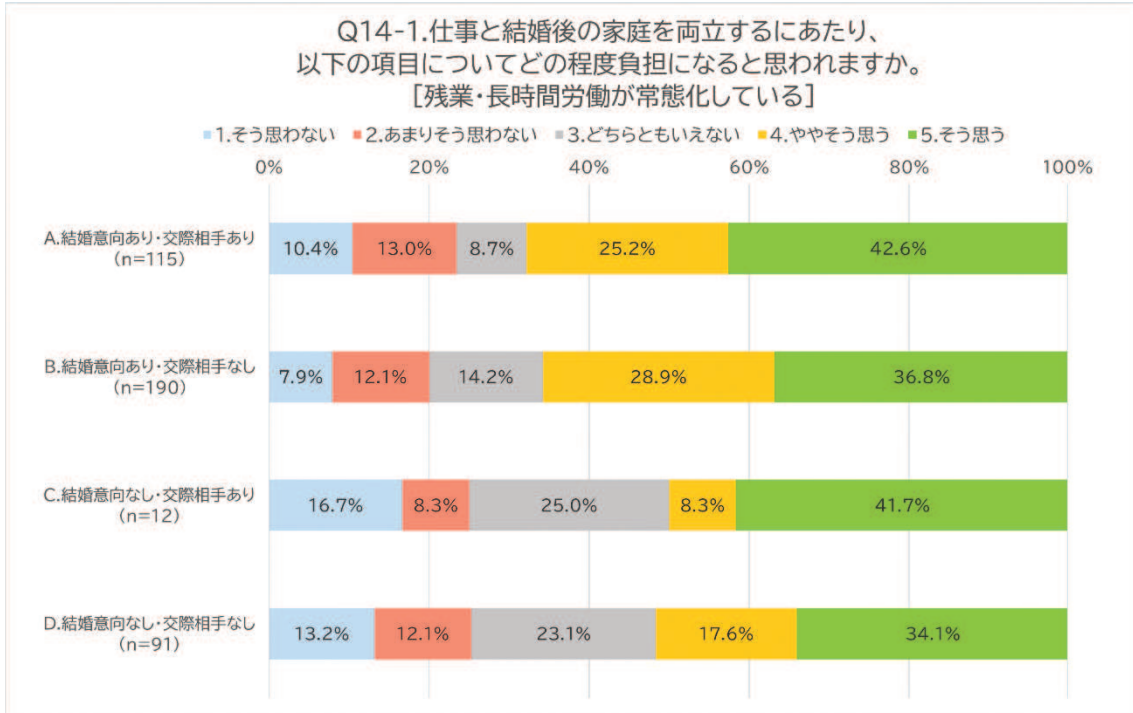
図表3 結婚に必要だと思う一人当たりの資金額に関するセグメント別回答結果



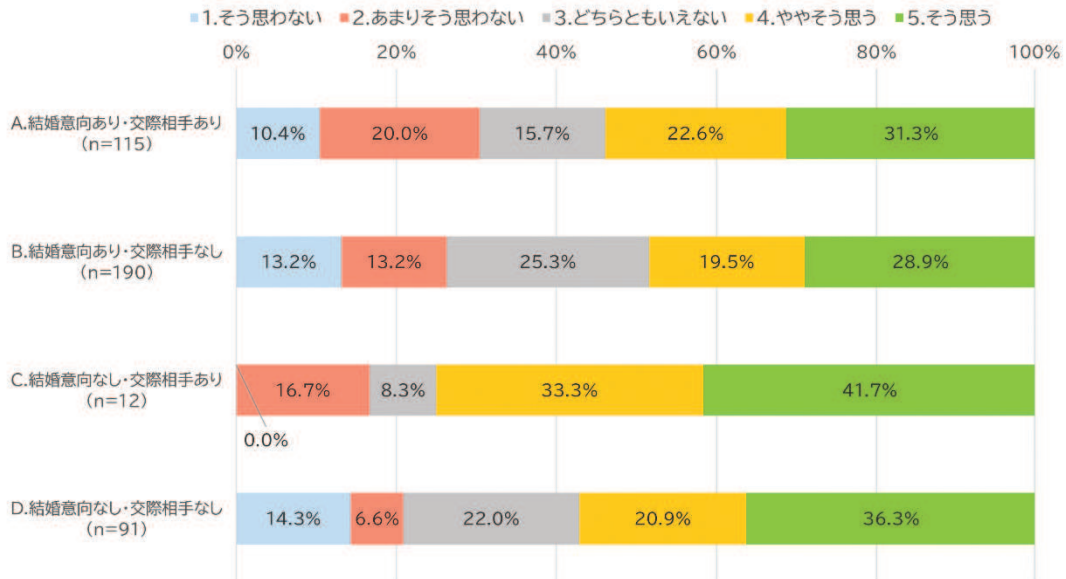
図表4 結婚に必要だと思う資金の準備状況に関するセグメント別回答結果



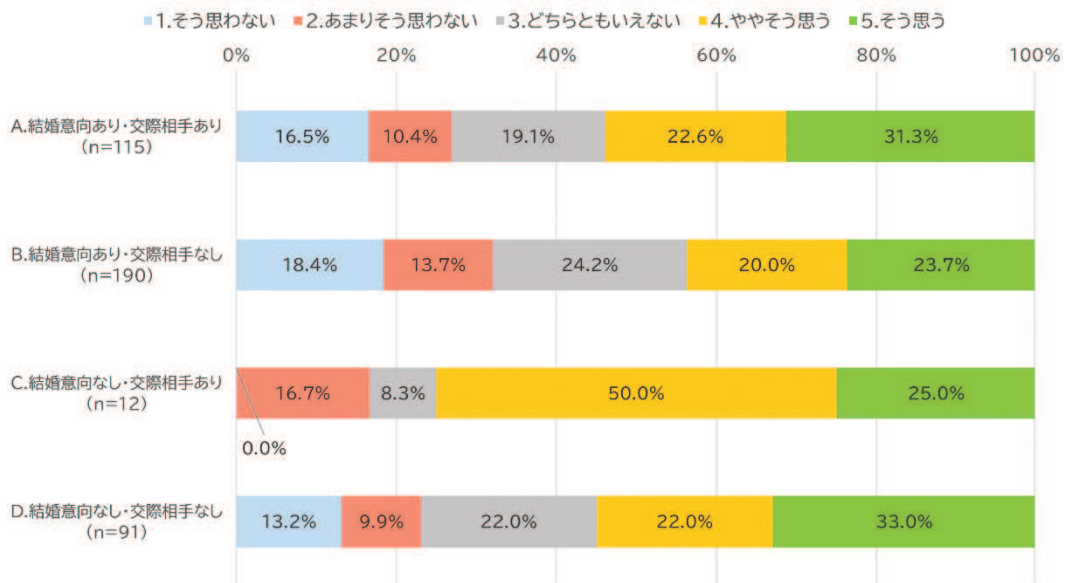
図表5 仕事と結婚後の家庭を両立するにあたり負担を感じる項目に関するセグメント別回答結果

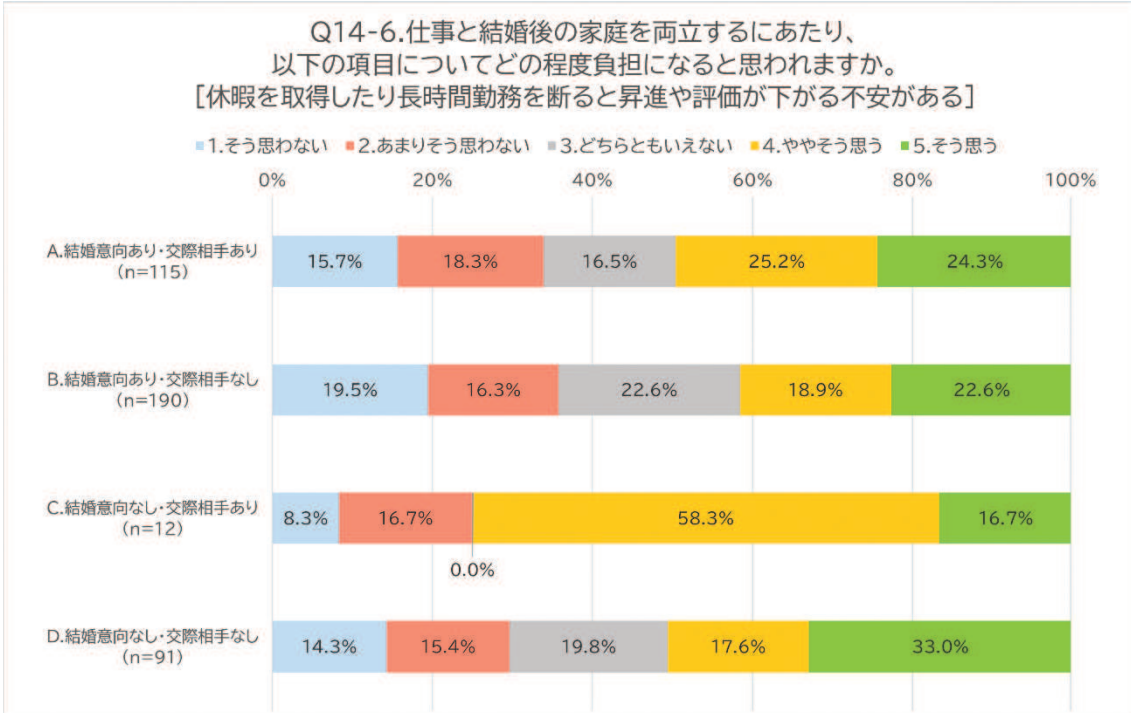
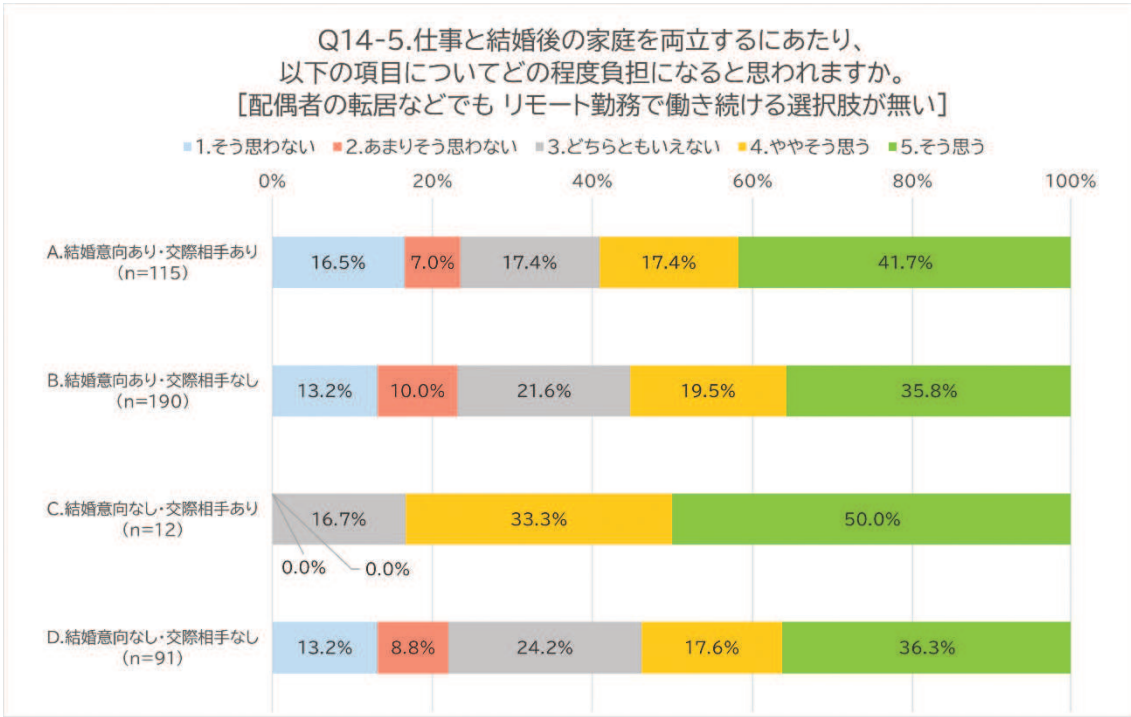


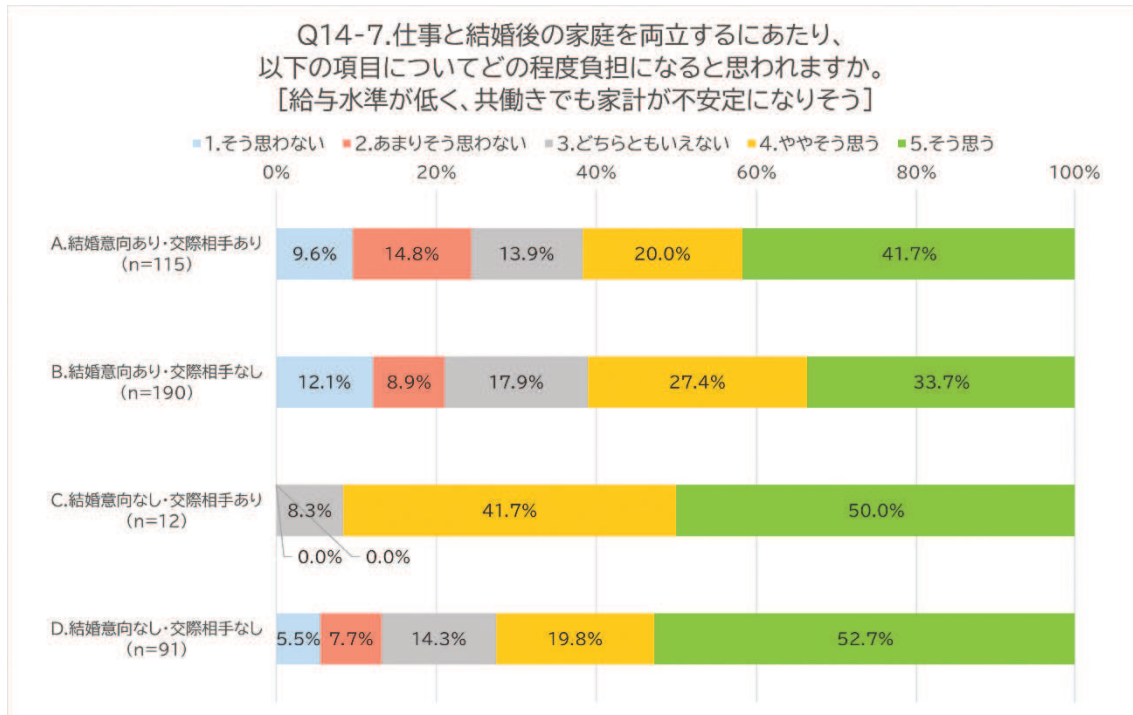
Q14-3.仕事と結婚後の家庭を両立するにあたり、
以下の項目についてどの程度負担になると思われますか。
[フレックスタイムや時短勤務など 柔軟な働き方の制度が無い]



Q14-4.仕事と結婚後の家庭を両立するにあたり、
以下の項目についてどの程度負担になると思われますか。
[柔軟な働き方の制度はあるが 職場の雰囲氣的に利用しづらい]







- 次に、セグメントA～Dの結果を比較し、各セグメントの結婚の障壁となっているものや、結婚の意向を低下させているものについて考察する。
- セグメント比較の結果、以下のことが明らかになった。

- 図表1より、結婚意向のあるセグメントA・Bは、結婚へ期待する点は「好きな人と一緒にいられる」[A：80.0%、B：60.5%]、「子ども・家庭を持てる」[A：65.2%、B：66.3%]と明確である。次いでセグメントBの「親を安心させられる」(52.1%)が過半数を超えることから、3世代にわたる家庭・家族の形成への意向が読み取れる。
- また、結婚意向のないC・Dは、結婚へ期待する点について「特にない」[C：50.0%、D：42.9%]が最も高く、他の質問項目への回答も概ね30%以下だった。以上のことから結婚に対してメリットを感じていないことが顕著である。
- 図表2では、すべてのセグメントにおいて過半数以上の割合で「経済的負担の増加」[A：58.3%、B：63.2%、C：75.0%、D：67.0%]「将来的な育児の負担」[A：56.5%、B：52.1%、C：66.7%、D：67.0%]、「仕事と家庭の両立」[A：64.3%、B：60.0%、C：50.0%、D：58.2%]について不安を感じている。
- また、結婚意向のないC・Dのみに着目した場合、「自由時間の減少」[C：83.3%、D：78.0%]、「暮らし方の変化」[C：58.3%、D：58.0%]

2%]、「親族との関係構築」[C：50.0%、D：50.5%]と、過半数を超えてA・Bを凌いでおり、自身を取り巻く環境変化により自由な時間に制約が生じることを不安視している。

- 全てのセグメントにおいて「経済的負担の増加」が結婚に対する不安要素として高いポイントを示しているのは先述のとおりだが、それを裏づけるように結婚に必要なと思う資金（図表4）は「ほとんど準備できていない」の回答がいずれのセグメントにおいても最も高く、加えてA～Dの順に同回答が占める割合が増加していることがわかる。また、図表3からも見て取れるように、結婚に必要な資金が500万円以上と高額なイメージを抱いているのも、同様にA～Dの順に増加傾向にある。
- 図表5「仕事と結婚後の家庭を両立するにあたり負担に感じる」項目について、残業・長時間労働や繁忙期・休日出勤など仕事が占める割合が負担と考える層がいずれのセグメントでも過半数を超え（“ややそう思う”、“そう思う”の合計）、特にQ14-1からは、結婚意向があるA・Bにおいては仕事により時間の自由が制限されるイメージを強く持っている。（Q14-1・2）
- 結婚生活において柔軟な働き方（勤務時間、制度活用のしやすさ、リモート勤務）や会社からの評価をより重視しているのがセグメントCであり、特に結婚意向の障壁として自分の時間を持ちたいとの意向が顕著である。先の図表2からも同様に読み取れる。（Q14-3～6）
- また、結婚生活における給与、家計に関する不安は全セグメントにおいて過半数を超えており（“ややそう思う”、“そう思う”の合計）、経済的なハードルが読み取れるのは先の図表2も示したとおりである。（Q14-7）

1. 2. セグメント比較から考えられる考察

（1）結婚への意向があり交際相手がいる方の結婚の障壁となっているものについて

- 結婚へ前向きな気持ちはあるものの、経済負担、将来見込まれる育児負担、仕事と家庭の両立等へ不安を感じている。
- 特に仕事と家庭の両立においては、働き方や勤務形態、所得に関する不安、課題を改善する必要がある。また、経済負担軽減のためには、夫婦が共に結婚する前と同様に仕事を続けることが理想であると調査結果からも読みとれる。

（2）結婚への意向がなく交際相手がいる方の結婚意向を低下させているものについて

- 結婚への意向があることから、対象者の多くが不安を感じる項目はセグメントA（結婚への意向があり交際相手がいる）と類似しており、経済・育児の負担、仕事と家庭の両立が障壁要因として高い割合を示している。また、それらに加えて自由時間の減少を懸念する割合も過半数を超えている。

- これには交際相手が見つからない現実的な問題を抱える層および交際自体に躊躇する心理的要因が起因する層も一定数混じっていると推測できる。

(3) 結婚への意向があり交際相手がない方の結婚の障壁となっているものについて

- 経済的、時間的に自由を制約する要因となりうる負担の増加を嫌厭する傾向にあり、結婚することによって得られる変化への期待感が見られず、現在の生活を変えたくないと感じていることが顕著である。
- 交際相手がいるにもかかわらず結婚意識のないこの層は、子どもや家庭、社会的信用への執着が薄い傾向が垣間見られる。裏を返せば現状の幸福度が高いと推察できる。

(4) 結婚への意向がなく交際相手がない方の結婚意向を低下させているものについて

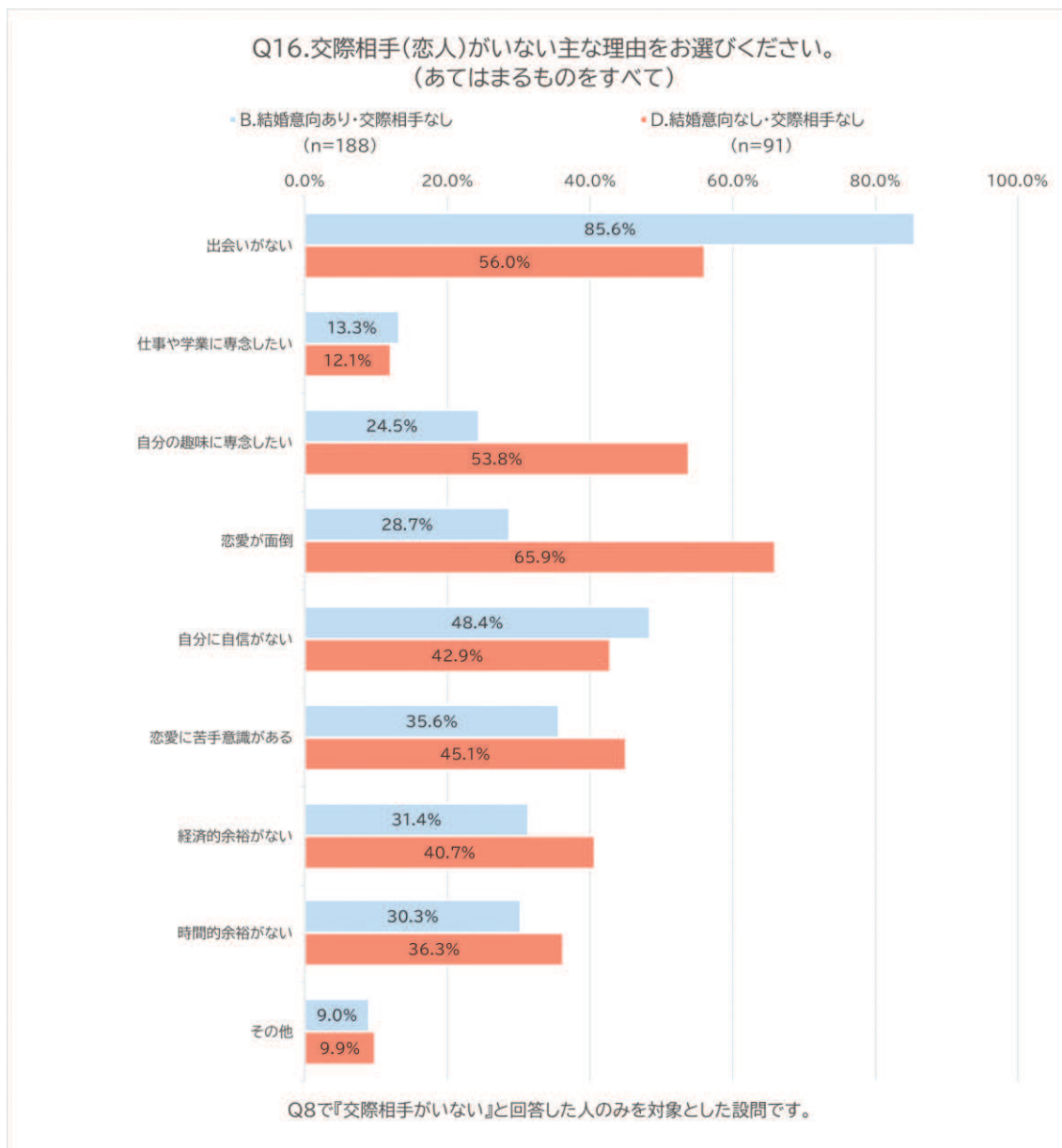
- 結婚やそれに付随する対価、変化に対し価値を見出しておらず、負担と捉えていることが顕著である。
- 一方、交際相手がいるものの結婚意向のないセグメント C との違いは、好きな人になりたい、子どもや家庭を持ちたい、社会的信用を得たいという点で比較的前向きな意向を示している。ただし、現在交際相手がないことにより、結婚に対しての拒否感よりも結婚を具体的に想像しにくい状況にある可能性も考えられる。

2. 出会いに関する意識について

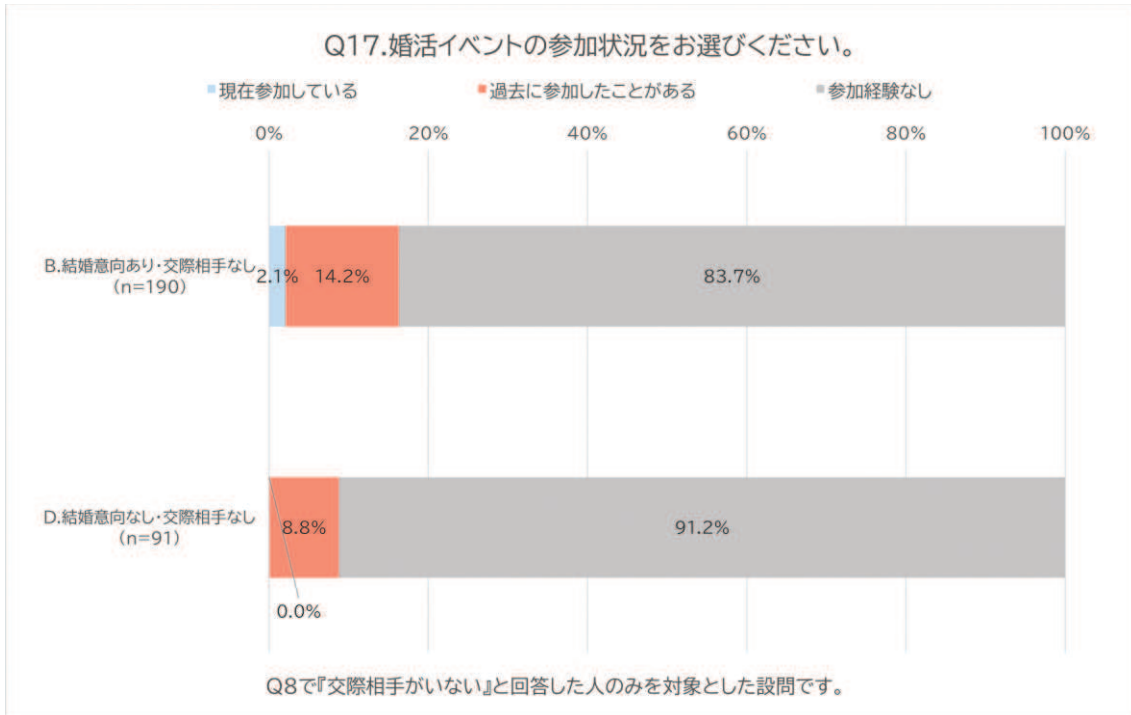
2. 1. セグメント比較結果

- 全てのセグメントの出会いの場についての意識に関する回答結果は図表 6 から図表 10 のとおりである。

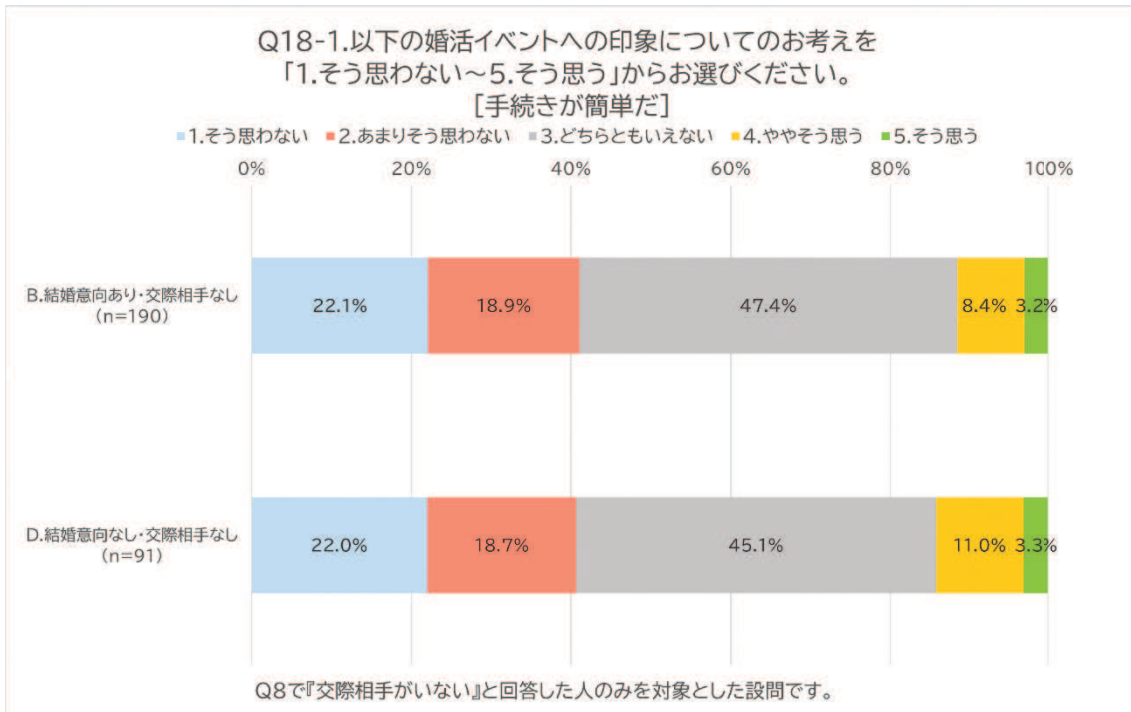
図表6 交際相手（恋人）がいない理由に関するセグメント別回答結果

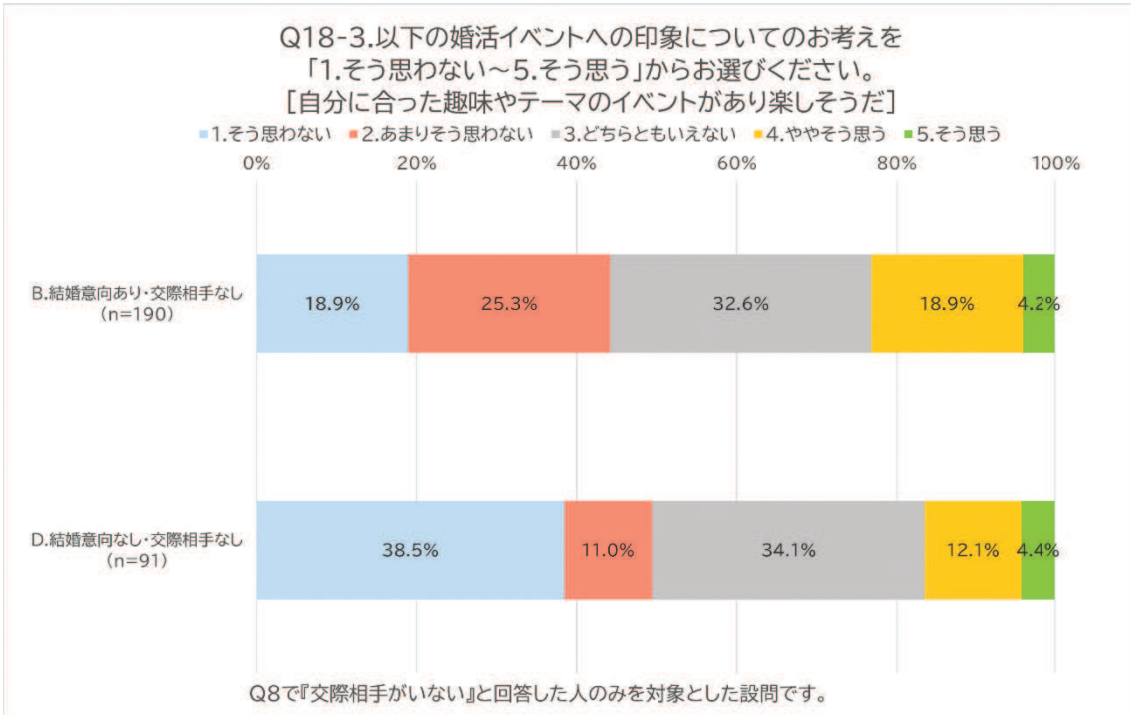
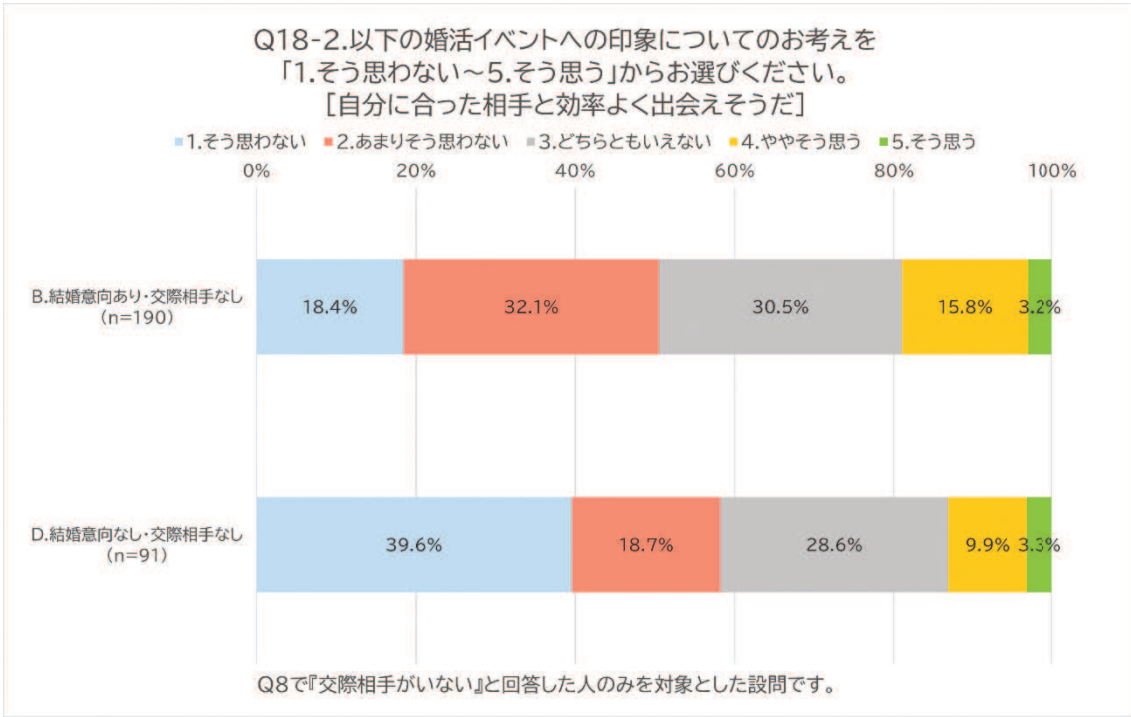


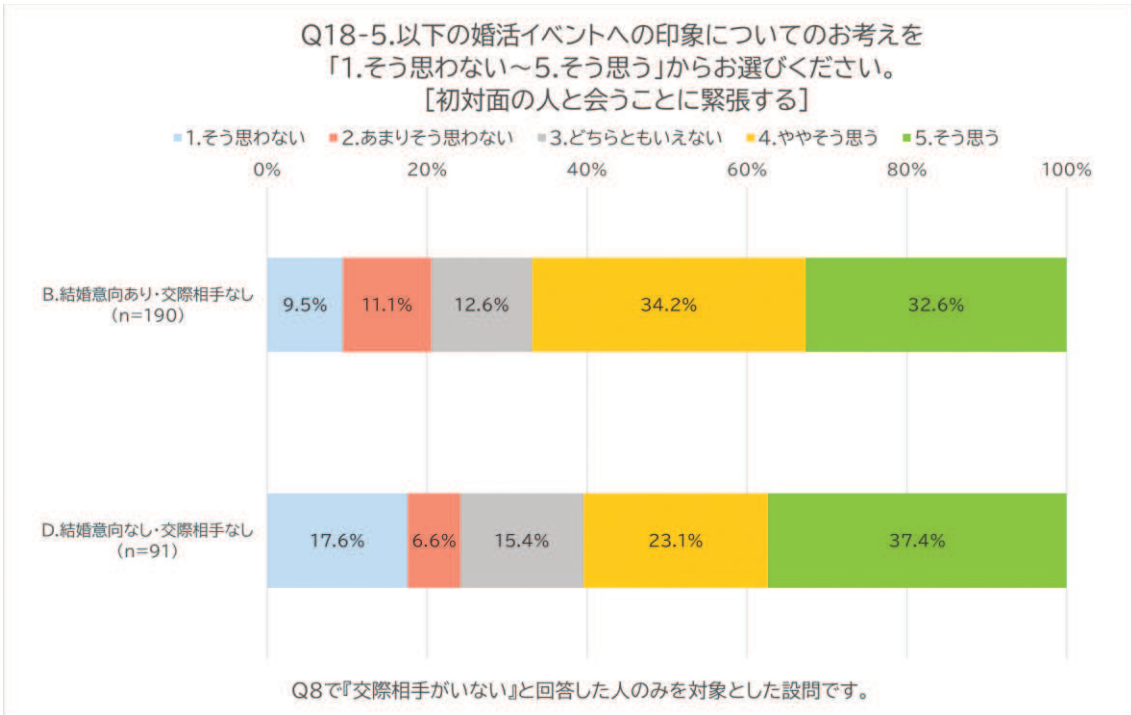
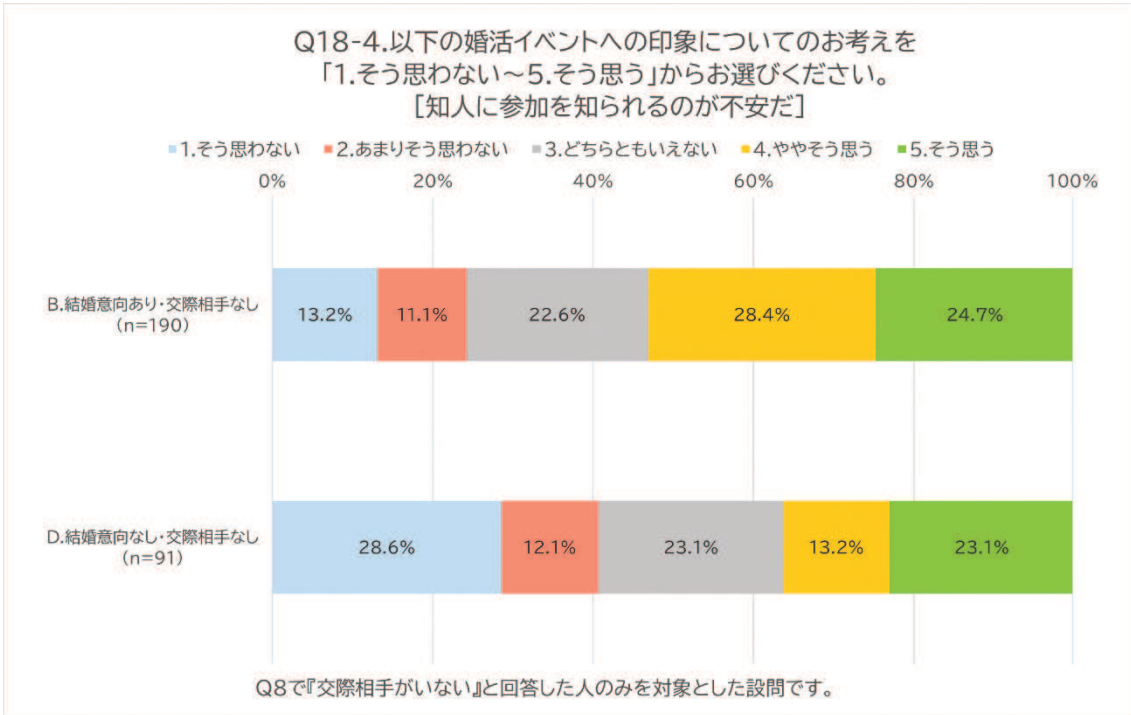
図表7 婚活イベントの参加状況に関するセグメント別回答結果

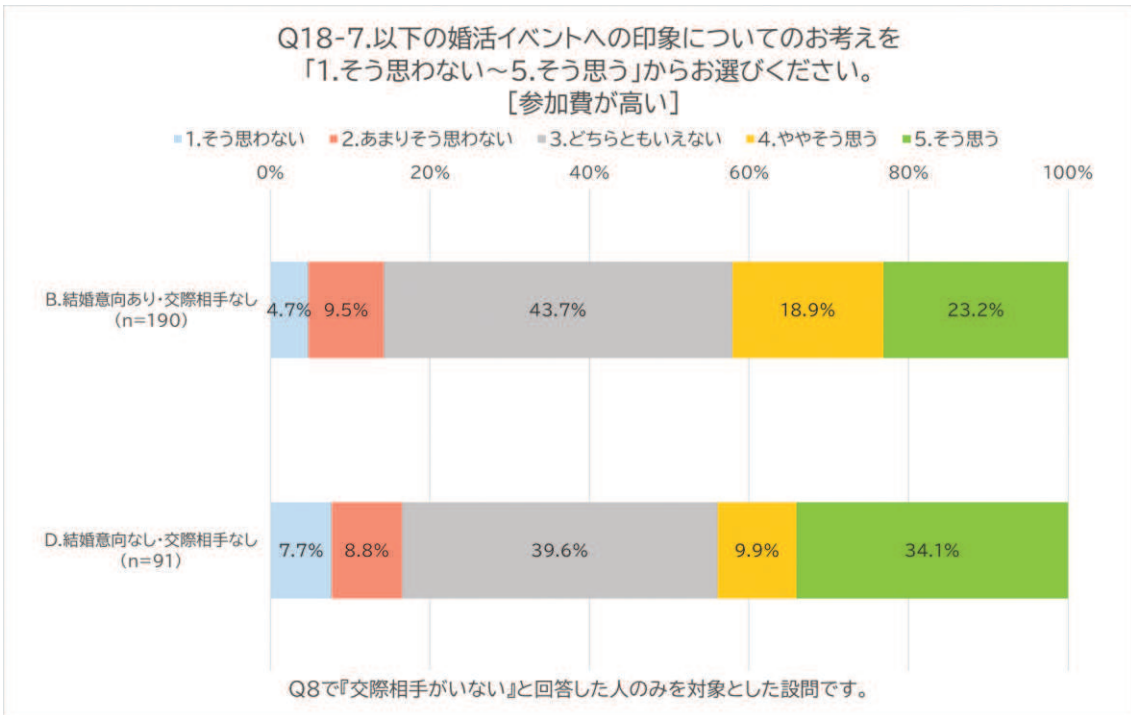
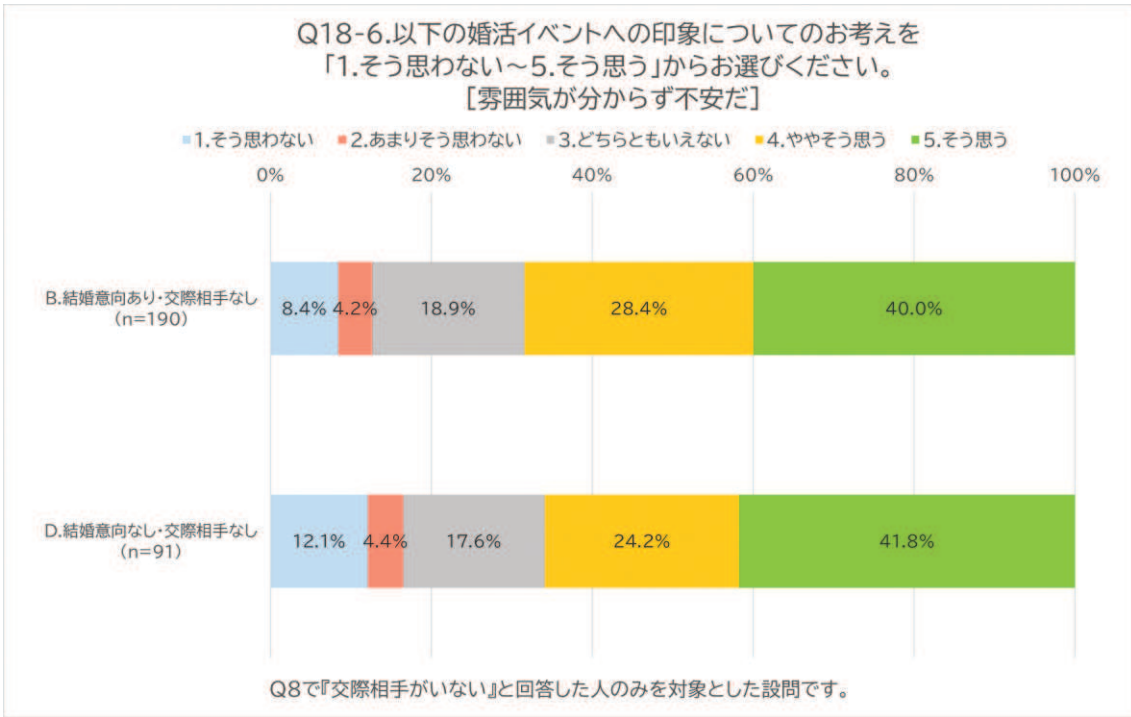


図表8 婚活イベントへの印象に関するセグメント別回答結果

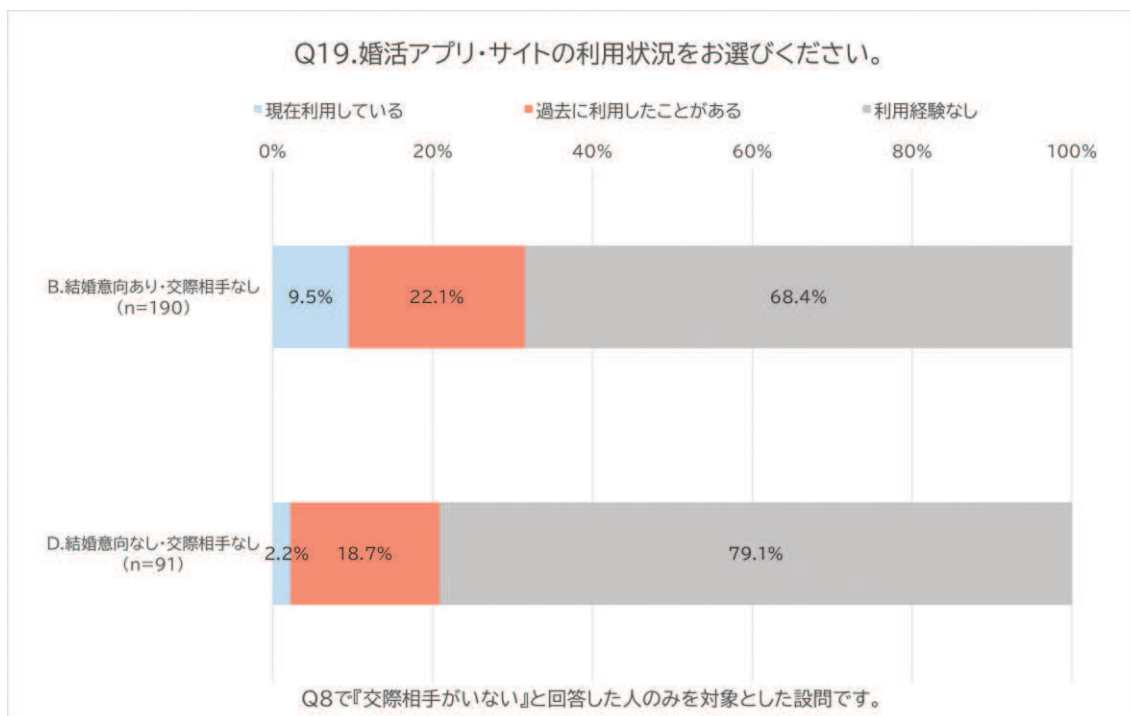




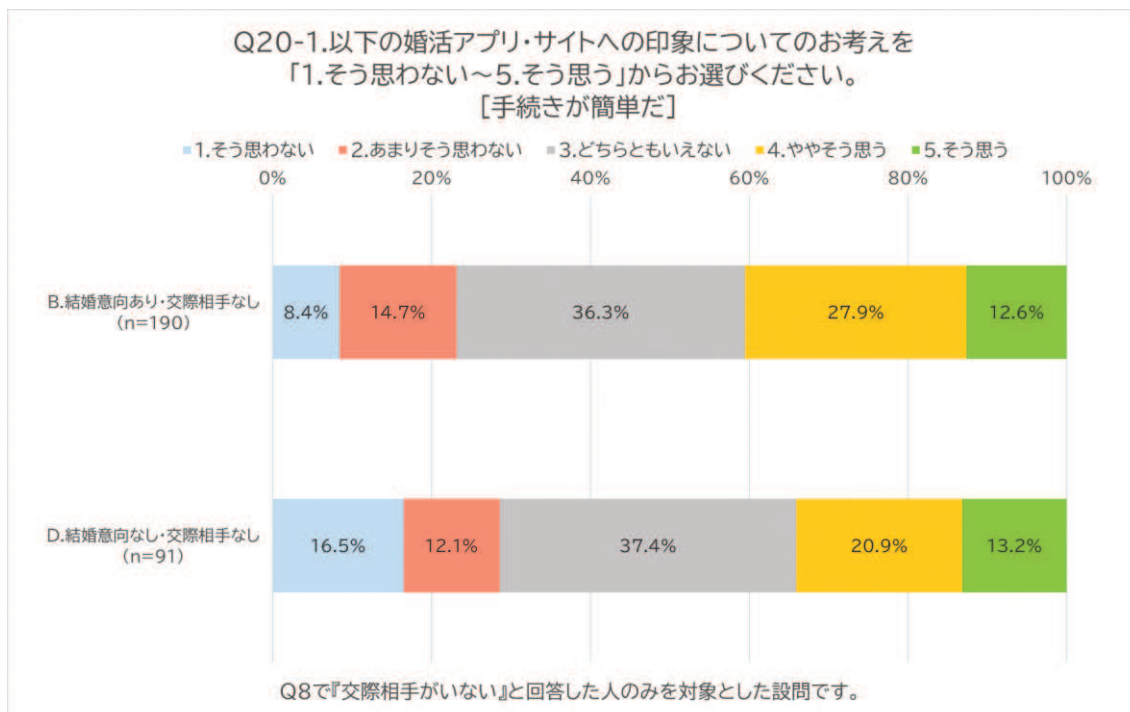




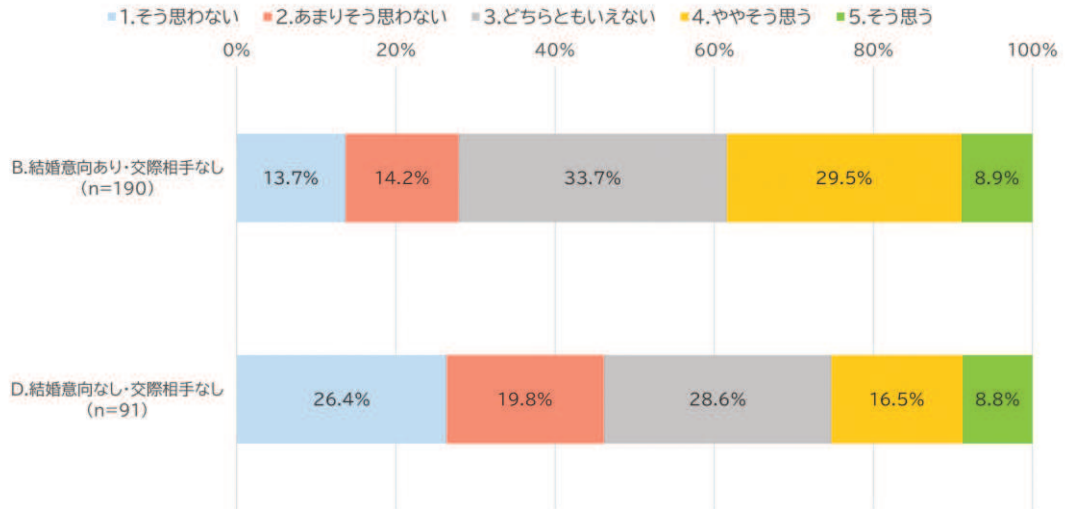
図表 9 婚活アプリ・サイトの利用状況に関するセグメント別回答結果



図表 10 婚活アプリ・サイトへの印象に関するセグメント別回答結果

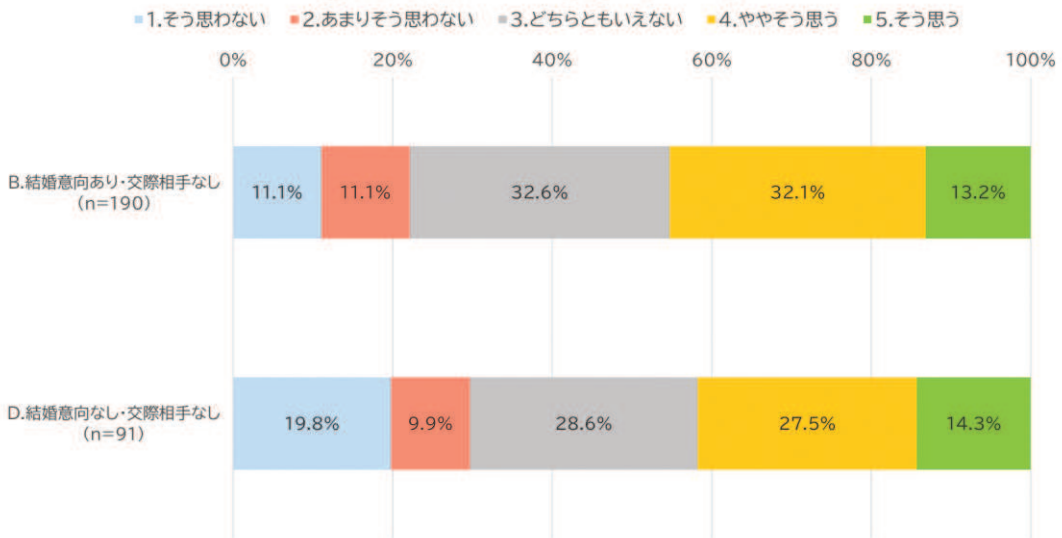


Q20-2.以下の婚活アプリ・サイトへの印象についてのお考えを
「1.そう思わない～5.そう思う」からお選びください。
【自分に合った相手と効率よく出会えそうだ】



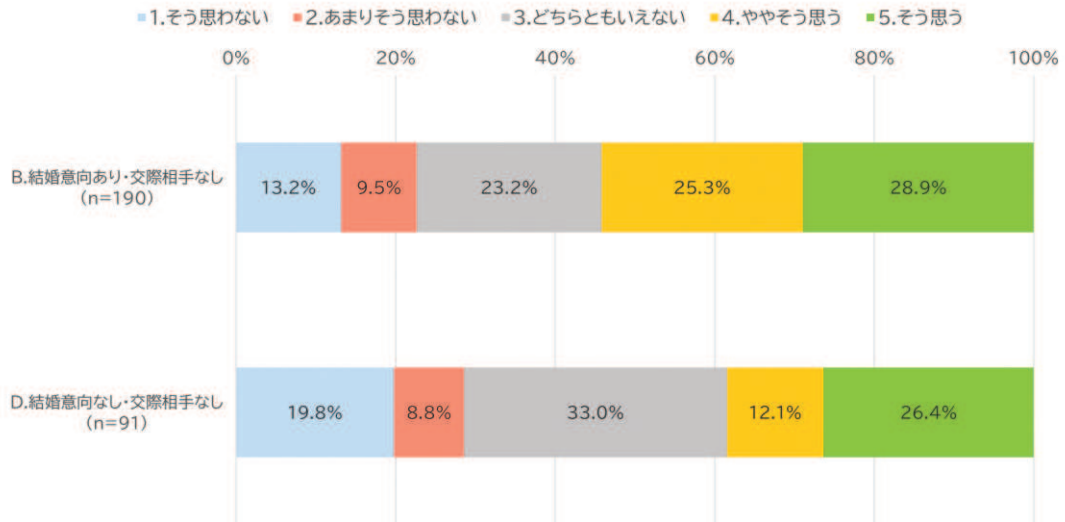
Q8で『交際相手がない』と回答した人のみを対象とした設問です。

Q20-3.以下の婚活アプリ・サイトへの印象についてのお考えを
「1.そう思わない～5.そう思う」からお選びください。
【異性と出会うまでの時間が早そうだ】



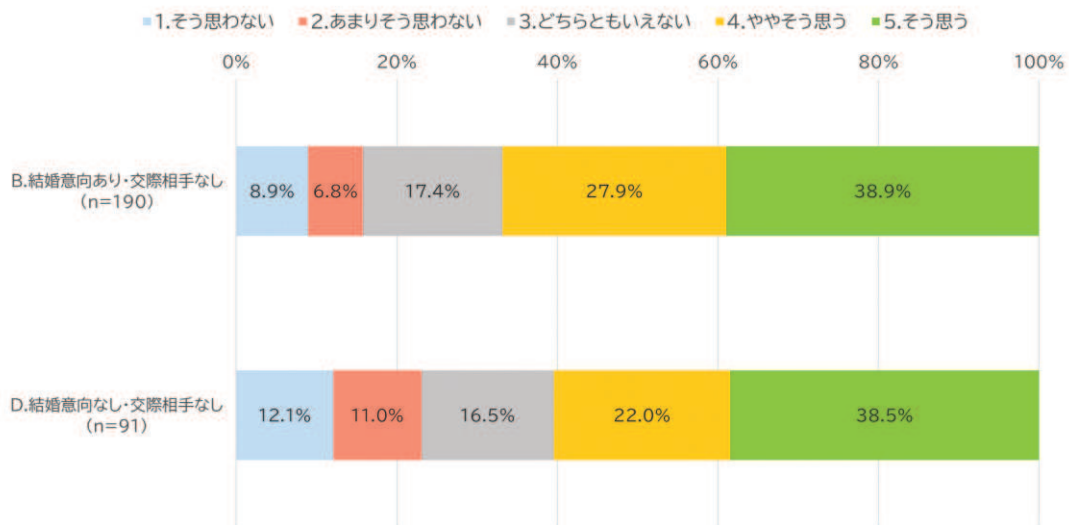
Q8で『交際相手がない』と回答した人のみを対象とした設問です。

Q20-4.以下の婚活アプリ・サイトへの印象についてのお考えを
「1.そう思わない～5.そう思う」からお選びください。
【知人に利用を知られるのが不安だ】

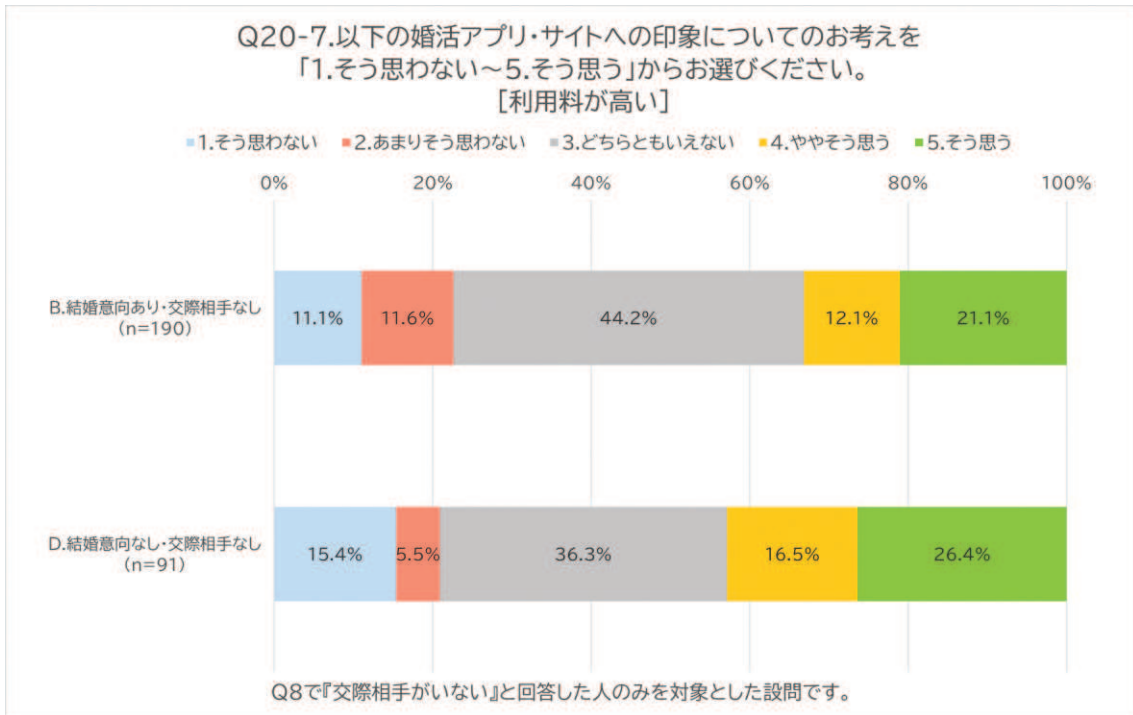
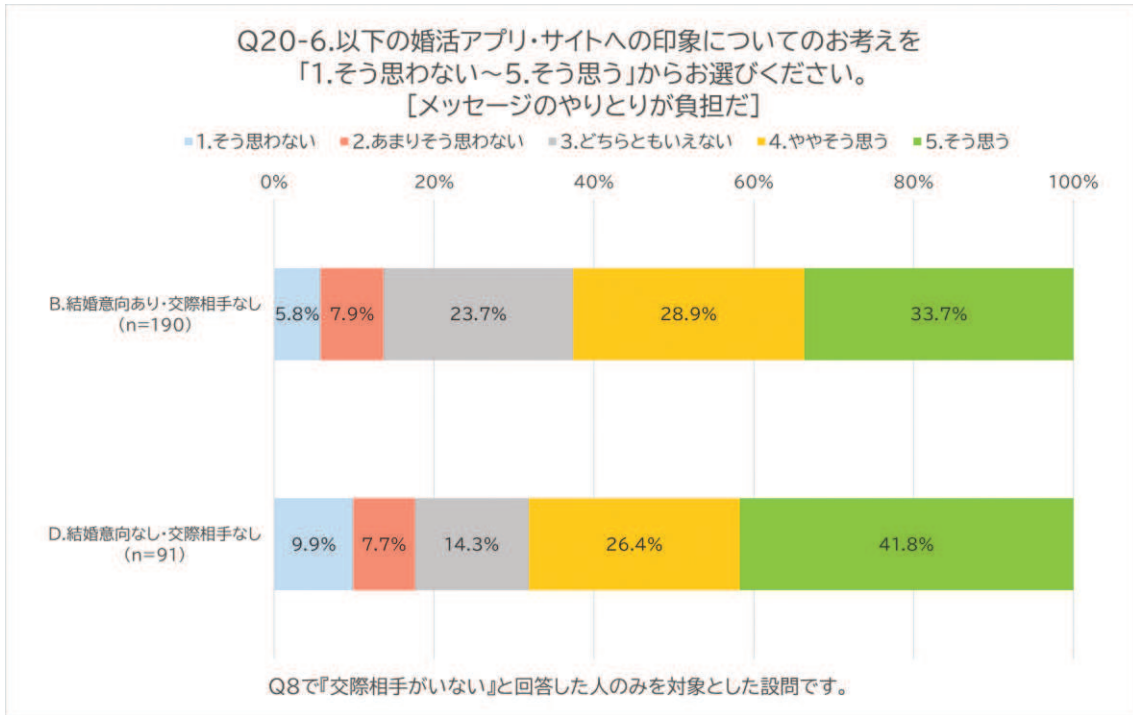


Q8で『交際相手がない』と回答した人のみを対象とした設問です。

Q20-5.以下の婚活アプリ・サイトへの印象についてのお考えを
「1.そう思わない～5.そう思う」からお選びください。
【初対面の人と会うことに緊張する】



Q8で『交際相手がない』と回答した人のみを対象とした設問です。



- 次に、セグメント B・D の結果を比較し、出会いの場活用に関する障壁となっているものや、活用への意向を低下させているものについて考察する。
- セグメント比較の結果、以下のことが明らかになった。

- 図表 6 より、結婚意向のあるセグメント B は、交際相手がいない理由として「出会いがない」が 85.6% を占めており、明確である。
- また、結婚意向のないセグメント D は、交際相手がいない理由として、「出会いがない」(56.0%) の他に、「自分の趣味に専念したい」(53.8%)、「恋愛が面倒」(65.9%) との回答が過半数を超え、そもそも恋愛をする意向が薄いことがうかがえる。
- 加えて、D は「恋愛に苦手意識がある」、「経済的余裕がない」、「時間的余裕がない」の項目で B を上回っており、比較すると自身の状況がひっ迫している、または交際に対し後ろ向きな感情が働いていることがうかがえる。
- 図表 7 と図表 9 を比較し、出会いの場への参加経験（“現在参加している”と“過去に参加したことがある”の合計）は、[B：婚活イベント 16.3%、アプリ・サイト 31.6%]、[D：婚活イベント 8.8%、アプリ・サイト 20.9%] といずれも低いですが、B・D 共に、アプリ・サイトの方がイベントより参加経験が多い。
- 図表 8 と図表 10 を比較し、参加手続きのしやすさについて着目すると、「手続きが簡単だ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」における回答が [B：婚活イベント 11.6%、アプリ・サイト 40.5%]、[D：婚活イベント 14.3%、アプリ・サイト 34.1%] と、B・D 共にアプリ・サイトの方が上回っている。(Q18-1、Q20-1)
- 婚活イベントの利用において、「知人に参加を知られるのが不安だ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」が、[B：53.1%、D：36.3%]、対してアプリ・サイトの「知人に利用を知られるのが不安だ」が [B：54.2%、D：38.5%] といずれも高い数値を示していることから、周囲に活動を知られることへの抵抗感がうかがえる。(Q18-4、Q20-4)
- B・D 共に 60% 以上が、婚活イベント、アプリ・サイトの利用において、「初対面の人と会うことに緊張する（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」と回答している。(Q18-5、Q20-5)
- 婚活イベントについて、「自分に合った相手と効率よく出会えそうだ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」が、[B：19%、D：13.2%]、と低い割合だった。一方、アプリ・サイトでは [B：38.4%、D：25.3%] と、およそ 2 倍の割合で効率的だと捉えている。(Q18-2、Q20-2)
- また、費用に関する設問項目では、婚活イベントでは“ややそう思う”と“そう思う”の合計が [B：42.1%、D：44.0%]、“そう思わない”と“あまりそう思わない”の合計が [B：14.2%、D：16.5%] と、結果に乖離が見られる。対してアプリ・サイトにかかる費用に関しては前者が [B：33.2%、D：42.9%]、後者が [B：22.7%、D：20.9%] と、イベントほど

の差異はなく、費用面での負担が少ないと捉えられている。(Q18-7、Q20-7)

- 婚活イベントについて、[B: 68.4%、D: 66%] が、「雰囲気が分からず不安だ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」と回答している。(Q18-6)
さらに、「自分に合った趣味やテーマのイベントがあり楽しそうだ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」の項目でも [B: 23.1%、D: 16.5%] と低い数値を示しており、イベント参加による出会いに対する期待感が低い。(Q18-3)
- アプリ・サイトの利用について、「異性と出会うまでの時間が早そうだ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」が [B: 45.3%、D: 41.8%] (Q20-3) で、「メッセージのやりとりが負担だ（“ややそう思う”と“そう思う”の合計）」で [B: 62.6%、D: 68.2%] と高いポイントを示していることから、気軽に出会える印象が持たれている反面、コミュニケーションの継続に対するネガティブな一面、億劫さも垣間見られる。(Q20-6)

2. 2. セグメント比較から考えられる考察

(1) 結婚への意向があり交際相手がない方の出会いの場への参加の障壁となっているものについて

- 婚活イベントに対しては、初対面の人と会うことに緊張する、雰囲気が分からず不安、自分に合った相手と効率よく出会えそうだと思えない、手続きが簡単ではない、といったマイナスの印象が牽引し、参加を遠ざけていると見受けられる。
- 他方、アプリ・サイトの方が婚活イベントに参加するより手続きは面倒ではない印象を持っているが、サイト利用に当たってのメッセージのやり取りが負担と感じていることから利用に至らないケースもあると推測される。
- 婚活イベント、アプリ・サイトともに、その活動自体を他人に知られたくないという項目が高ポイントを示しており、婚活が有する印象をネガティブに捉えがちな傾向から、出会いの機会を失っているとも考えられる。

(2) 結婚への意向がなく交際相手がない方の出会いの場への参加意向を低下させているものについて

- 交際相手がない理由として、「自分の趣味に専念したい」、「恋愛が面倒」という設問が極めて高ポイントを示すことから、そもそも恋愛をする気がない割合が高く、異性との出会いの場へ参加する必要性を感じていないことがうかがえる。
- また、このような属性の人の心理的傾向として、自立志向が高い、リスクを回避したい、過去のトラウマを抱えている等が起因していることも推測される。

【今後の展望】

1. 考えられる施策について

1. 1. 結婚の障壁を解消する施策について

- 結婚の障壁を解消するための施策としては、対象者の経済的・社会的・心理的な要因にアプローチする必要がある。とりわけ第三者からの働きかけとして実施しやすいのが、経済的・社会的要因の解消である。その結果として対象者個人の意識改革が促され、各個人的な課題である心理的要因の解消へと結びつく。
- 経済的な不安や働き方の問題を解消するためには、企業が主体的に改善可能な労働環境、賃金体制等への対応が求められるが、行政が副業・リモート業務推進に前向きな企業等へ補助金・助成金制度を設ける等、企業活動をバックアップできればよりその効果は高まる。
- 対象者への直接的なアプローチとしては、ファイナンシャルプランニングのサポートをすることで、長期的な経済不安を減少させる可能性もある。またお互いの心地良い暮らしを作り上げるパートナーシップを学ぶ機会があれば、家庭と仕事の両立、自由時間の減少への不安を和らげる効果も期待できる。
- さらに主体性が求められる婚活という直接的なアクションだけでなく、趣味や学びなどのさまざまな交流機会を創出することで、結婚意向の低い層や婚活へのイメージに消極的な層でも自然な出会いのきっかけとなり得る。

1. 2. 結婚への意向の低下を解消する施策について

- 最も多い不安は「自由時間の減少」であるが、その他にも「経済的負担」「育児負担」「家事・仕事の両立」「暮らし方の変化」「親族との関係」など、幅広い不安が点在している。結婚全般に対して「生活の自由や安定を損なうもの」とする漠然とした不安が広がっていると考えられる。
- お互いの心地良い暮らしを作り上げていけるパートナーシップの在り方を学ぶ機会があると、考え方が変わるきっかけになるかもしれない。
- また不安の解消と共に、結婚することによって得られる明るい変化や未来シミュレーション、幸せに暮らす既婚者との交流の機会を提供することにより、結婚意向を醸成する可能性がある。

1. 3. 出会いの場への参加の障壁を解消する施策について

- 出会いの場への参加の障壁を解消する施策については、特に心理的ハードルを取り除く工夫が必要である。
- 婚活イベントについては、雰囲気がわからず不安、初対面の人と会うことに緊張するとの声が多くを占めることから、単発のイベントとして開催するのではな

く、過去の開催の雰囲気をアーカイブ動画などで疑似体験できるようにしたり、アプリ・サイトと連動して参加者をある程度限定しつつ、他の参加者の情報を予め閲覧するという段階的な設計をすることで初対面の緊張を下げる効果が期待できる。

- 婚活アプリ・サイトについて、メッセージのやりとりが負担、初対面の人と会うことに緊張すると回答している。上記の婚活イベントとアプリ・サイトを連動することで、アプリ・サイトの利用者が1対1での接触へと切り替わる緊張感を和らげるために、アプリオフ会のような気軽に直接対面するイベントを実施し、そこに参加することでアプリへの参加スタートも切りやすくなる可能性がある。
- また、メッセージのやり取りへの負担を減らすためにシステム上での工夫をすることもポイントと考えられる。

1. 4. 出会いの場への参加意向の低下を解消する施策について

- 異性との出会いの場を求めているという声が多くあることから、婚活前提ではない”緩やかな関係づくり“からスタートできる設計にする必要がある。